

UTA会 だより

■幹事長の挨拶

十二月のUTA会も近づいてきました。今年度のセミナーはますます的絞られてきて、過ぎ去った年月、何をしてきたのかと自分に問いながら、やっと今頃になって、やるべきことが見えてきた気がします。セミナーに出るたびに、今度こそ、今度こそと伸ばしてきた自分の学び方も、もう時間がないと、私の中が言っている気がします。

そんな中、私に水との出会いがありました。これは真剣に学んでいこうとする私にとって、大きなきっかけになりました。かつて癌を患い、良い水が自分の体にとって必要だと思いながら、おいしいお水を探していたこと

もあつて、その嬉しさは、やっと、やっと出会ったという嬉しさでいっぱいでした。これで、後は学ぶだけと思えたのです。一、二、三をやるだけとなったのです。

一、二、三を実行するだけ、こんなに明確になつても、私の癖は、なかなか崩れません。それでも私の中は、以前からしたらはつきりとしてきたことは確かです。やるしかないのです。

長い間、本当に長い間、こんな不甲斐ない者によくもお付き合いいただいたと、どんな言葉に表したらいいかわかりません。ありがとうございます、ただでは済まされない気がいたします。肉体細胞にもまつたく酷いことばかりをしてきた私です。どんな病気になつても当然な私です。

癌にもなりましたが、今はこの私を支えてくれた肉体細胞に申し訳なかつた、本当に申し訳ない、そして、ありがとう、ありがとうと思えるようになってきました。そう思えるようになってきたことが嬉しくて、ありがたいです。

そして、もうご承知のことと思いますが、まだ寒さの残る三月に、田池先生、塩川香世さんにご承諾を頂き、UTA会を追加開催する運びになりました。嬉しいですね。どうぞ、皆様、寒さが増す時期に入りますが、お体もお大事にされ、元気で十二月と三月のUTA会にご参加ください。楽しみにお待ちしています。

久保明子

UTA会風景

■第六回UTA会の開催状況

二〇一一年五月二十九日から三十一日まで琵琶湖グランドホテルで第六回UTA会が開催されました。今年の三月に東日本大震災という大きな出来事がありました。約七百四十名の会員が元気に参加されました。

今回は「意識の流れの学びを進める」と題して、四編十七項目の資料が配られました。また、三月に会員に販売された△愛▽のTシャツを田池先生を始め、多くの方々が着用されてきました。

初日は、久保幹事長の挨拶、お知

らせに続き、田池先生がご挨拶で「事前に△死後の自分と語る▽を募集しましたら、約百三十名くらいの方からメールを頂きました。その方達で波動の勉強を希望の方は、後ほど受付で黄色の用紙で応募してください。その他の方は白紙で応募してください。さて今回は資料の通り実践をテーマに進めます。この学びは△心を見る▽これ一つです。皆さんは数え切れない転生で他力の思いが染みついているんです。全ての転生は失敗、地獄です。皆さんは地獄から出てきた。自分の過去が自分を今のあなたに知ってほしいと語ってくるんです。それが様々な苦しい現象として現れてくるんです。だから自己供養が大切なんです」などと話されながら、資料を順を追って丁寧の説明された。休憩の後、岡田忠さん、安田豊治さん、

中野文子さんの三人の方が指名され、波動の勉強を受けました。三人の方に語りかけているようで、実は全員に語りかける文字通り、△愛の放射塔▽を実践されていきました。最後は恒例の「ふるさと」で初日が終了しました。

二日目は、午前中は瞑想・親睦の時間ということで、各自会場やその他の場所でそれぞれが過ごされました。

午後からは波動の勉強に先立ち田池先生が「初めての方もおられるので、日常生活の取り組みで少しお話したいと思います。まずは早寝・早起きです。そして、適度な運動です。入浴は半身浴を心掛けてください。そして、丹田呼吸です」と話されて、丹田呼吸の実践が行われま



第6回U T A会風景

した。そして、「昨日お話しした八入門編V以下をしっかりとやってください。中途半端な人には厳しい結果が出ますよ。田池留吉に心を向ける、合わせる、委ねる。田池留吉を思うということとは信じるということですよ」と話され波動の勉強に入りました。

まず黄色の用紙から抽選で五人が

選ばれました。今回は死後の世界がテーマでもあり、「死の反対は生まれるですよ。生まれるのは物凄いエネルギーです。自分で選んできたんですからね。真面目に、そして、真剣に死を考えてください。自分の死後と語るんです。この学びもそろそろ終わるんですよ。だから私も必ずと言っていきます」と皆さんに訴えられました。引き続き、今度は白色の用紙を交えて五人が選ばれて波動の勉強が続きました。

「ちよつと予定外ですが、岡田有弘さん」が指名されました。そして、森池繁夫さんが呼び出されました。実はお二人はかつての会社の同僚で、森池さんは二十数年前に何回かセミナーに参加されたが中断、最近、森池さんが仙台の図書館で『その人、田池留吉』を読まれたのをきっかけ

に、再び参加されることになったそうです。そして、フロントで同じ部屋割りのお互いの名前を見て驚いたというエピソードがあったのです。先生は「奇跡のような話ですが、私に言わせれば不思議でもなんでもない」と話されました。波動の勉強で塩川さんが「来世の私の父親になる人かもしれません」と森池さんの膝元に抱きつく感動的なシーンが展開され、場内が大きく盛り上がりました。続いて足のやや不自由な森池さんに、先生が「田池留吉に心を向けて委ねる思いを出してください」と話され、森池さんの思いが通じたのか、歩行が改善され、場内に拍手が起きました。その後、五人が波動の勉強に出られて、最後は「ふるさと」で二日目を終了しました。

三日目は、田池先生が「昨日の復

習ですが、日常生活の過ごし方と初日の学びの進め方を毎日真剣にやっ
てください」と念を押されて、波動
の勉強が始まり、まず抽選で六人が
出られました。「クソ田池！のクソを
出すのが自己供養ですよ。皆さん隠
してるんです」などと話されました。
次いで青森から来られた四人が出ら
れました。その後、UTAブックで
ご活躍の桐生さんと岡田さんが出ら
れました。岡田さんは桐生さんの指
名によるものでしたが、田池留吉に
向ける意識で場内が大きく盛り上が
り、従来にない波動の勉強となりま
した。最後に五人が抽選で出られて、
「親孝行と温もりは違いますよ。お母
さんの温もりが分かって親にするの
が本当の親孝行です」などとコメン
トされました。正午に今回のセミナー

が無事に終了しました。

■第七回UTA会の開催状況

二〇一一年七月十日から十二日ま
で琵琶湖グランドホテルで第七回U
TA会が開催されました。八日に梅
雨明け宣言がなされて、暑さも増し
始めている中、約七百二十名の会員
が参加されました。

今回は、前回の資料「意識の流れ
の学びを進める」に加えて、効果的な
学びの方法として、一は母親の反省
ゼロ歳の瞑想、母親の温もり、二は
田池留吉に心向け・呼ぶ・合わせ
る・委ねる、そして、三は、自己供養。
この一、二、三を焦らず、弛まず、真
摯に励行するように示された資料が
配られました。事前のホームページ
でも「今回は一、二、三で進めますが、

特に自己供養に重点を置きます」と
予告されていました。

初日は、久保幹事長の挨拶、お知
らせに続き、田池先生が「今年のテー
マは愛です。少なくとも死ぬまでに
愛を理解して学んでください。今回
のセミナーのテーマは一、二、三（ワ
ン・ツー・スリー）です。これをしつ
かりやってください。今、いろいろ
と苦しんでいる人は自分が間違っ
ているですよ。苦しい現象は、気付
きのチャンスなんです」などと語ら
れながら、資料の説明に入られまし
た。赤子のような素直な気持ちで学
ぶように力説されて、「田池留吉を思
う瞑想」の希望者を各コーナーから
募られました。各コーナーから、十
名前の方達が出られて瞑想の実践
が行われました。一周りした後、塩



第7回U T A会風景

川さん親子と金田一房子さんが指名されて田池留吉に心を合わせる瞑想が行われました。その後、増田美耶子さん、本田せつ子さん、久保幹事長夫妻、佐藤延生夫妻が指名されて瞑想と波動の勉強が行われました。そして、最後に「ふるさと」の合唱で初日が終了しました。

二日目は、午前中は瞑想・親睦の自由時間ということで、各自が会場やその他の場所で過ごされました。

午後からは田池先生が「小さくするの自分。大きくするの自分。苦しんでいるの自分。これは心で分かるしかない。頭では分かりません」などと述べられて、早速、瞑想の実践に入りました。昨日同様に各コーナーから希望者が十名前後ずつ出て、一、二、三の習得ということで、瞑想の実践が行われました。「もう学びも最終段階ですよ。闇がどんどん出ます。それをあなたの温もりで包むことを実感してください」のコメントで転げ回る人が続出しました。「見ただけです。闇を出して供養する。これが大事です。皆さん出さないようにしているんです」。休憩の後、再び

各コーナーから希望者が出て瞑想の実践。適宜、指名された何人かが波動の勉強を受けました。そして、一周りの最後のコーナーは「全員でやりましょう」ということで、どんな内容が濃くなつていきました。

休憩の後、「今までの実践の結果をそれぞれで、自分なりにまとめておいてください」と前置きして、改めて一、二、三の実践と早寝・早起きなどの日常の実践を強調されました。その後、今日三周目の瞑想が行われ、各コーナーとも全員参加が始まり、終盤で「我は神なり」の思いに向ける瞑想が行われて、騒然たる雰囲気の中、さらに一周の瞑想の実践が行われた。

休憩の後、「最後は一斉にアルバーのメッセージを受ける瞑想をしましょう。まず目を閉じて、中の目を開いて、田池留吉に心を合わせて、

メッセージを受けてください。どうぞ」と言うことで、メッセージを受ける実践が試みられました。

そして、引き続き恒例の「ふるさと」の合唱で二日目終了しました。

三日目は、久保幹事長のお知らせの後、UTAブックの桐生さんから新刊についてのお知らせがありました。

先生が登場して、改めて宗教やお葬式の話などをされました。そして、「今日のテーマは自己供養」ということで、各コーナーから希望者が出て、自己供養を主体とした瞑想の実践が始まりました。瞑想に際し「はい、田池留吉に心を合わせる。出てきた闇を抱きしめる。ただ、闇の出しっぱなしはダメですよ。ワン・ツー・スリーの一、二をちゃんとやってください」

と念を押されました。

約二周半が行われ、「一度出た人は出ないでください」という先生のご注意もあり、大半の出席者が瞑想に参加できたようでした。瞑想の最中に先生のでこ入れも随時行われ、皆さん大いに盛り上がり、「嬉しかった人は手を挙げてください」と言う田池先生の言葉に多くの人達が手を挙げていました。「次回の九月までに本をしつかり読んで、ワン・ツー・スリーを真摯に実践してください」と結ばれ、「ふるさと」で今回のセミナーが盛会のうちに終了しました。

■第八回UTA会の開催状況

二〇一一年九月四日から六日まで、十二号台風の影響からか、秋の気配を感ずる中、琵琶湖グランドホテル

で第八回UTA会が開催され、約七百三十名の会員が参加されました。

今回は第六回、第七回の資料へ意識の流れの学びを進めるVに、ホームページに掲載せられたコメントを加えた資料が配られました。

初日は、久保幹事長の挨拶、お知らせに続き、田池先生が「台風が来ましたが台風も波動なんですよ。台風に対する思いを見るんです。この勉強は心でしか分かりません。へ私 はあなた、あなたは私、一つVと言っているのですが、これがなかなか分からない。へ私Vが分かってくれば分かってくるんです。皆さん、へ一つにならないVのは自分がそうしているんです。それから意識の転回をせずに、未だにチャネラーやってい

る人に警告しますよ。みんな肉が基盤なんです。狂いますよ。△資料を見ながら▽とにかく一、二、三を弛まず実践してください。特に瞑想が大事です。次第に周りが整ってきます。

△一寸先は闇▽と言いますが、私には通じません。闇は自分が作ってる。死ぬのがなぜ怖いのですか。意識の転回が進めば怖いものはありません」などと話され、休憩に入り、「これから瞑想の実践をやります。まず母を思うゼロ歳の瞑想から始めますので、希望者は三日間で一回だけ受付の箱に入れてください」ということで、約十名程度ずつが六回にわたり瞑想の実践に参加されました。最後に塩川香世さんら六名の方が指名され、塩川さんの現象で場内が最高潮に達しました。先生は「今日の実践はこれで終わりますが、ずっと続けるん

ですよ。量が質に変わります。津波が来ようが、地震が来ようがなくならない物を大事にするんですよ」などと締めくくられて、「ふるさと」の合唱に入りました。

二日目は、午前中は瞑想・親睦の時間ということで、いつもの通り各自がそれぞれの場所で過ごされました。

午後からは先生が「今日の瞑想は二△田池留吉を思う▽をやります。とりあえず何人かで練習しますが、皆さん一緒にやるんですよ。前に出れたとか出ないとかは肉の思いです。私は肉でやっていない。意識の世界すなわち波動、エネルギーでやってるんですよ」などと話されながら阿部一憲さんら六人を指名、瞑想に入る。途中から「意識の流れを感じる」

として塩川香世さんが指名され、大きく盛り上がる。小休止の間に申し込みがあつて、十四時過ぎから六組行われた。その間「一番をしつかりやって二番をやるんですよ。自分が温もりだと信じられることが大事です。初めから幸せなんです。肉が基盤

の人は死ぬまで戦うんです。自分の肉体細胞とも戦うんですよ。とにかく時間があればゼロ歳の瞑想をやってください。△箸を取るたびに思えよゼロ歳のわれ▽とね」などとコメント。△田池留吉の瞑想▽の最後に塩川香世さんの異語から△お母さん、ありがとう▽のメッセージで場内のボルテージが最高に盛り上がりました。十五時半過ぎに休憩の後、三つ目の△自己供養▽の瞑想が始まる。先生が「自己供養とは自分の過去世を供養することです。人はそのため



UTA会風景

に生まれてきたのに、金儲けだ宗教だと肉の世界で頑張ってる。こんな人が私の話を聞けば反発、抵抗しますよ。闇ですね。その闇を抱きしめて上げるんです。それを繰り返すうちに自分の温もり喜びに気が付くんです」などとコメントしながら三組が終了。ここで「それでは自分では一、二、三をずっとやってきたと思う人出

てください」に安田浩子さんと鈴木和子さんが出られ、塩川さんが二人のメッセージを語りました。その後同じ主旨で三人が出られました。この日は瞑想の実践が思いのほか早く終了し、十六時半過ぎに「ふるさと」に続き、余韻を残して会場の随所で喜びの輪が繰り広げられました。

三日目は、田池先生が右手を上を上げられ、左手を下に下げて「三次元では重力の法則で、水は上から下に流れます。人はもともと右手へ喜びVにいたのに、皆さん皆ここへ左手Vにいる。だからここへ右手Vに帰ればいい。本当のあなたへ意識Vが右手に帰りなさいよと言っている。それなのに俺はできていますか言っている。波は右から左に流れている。それを

感じて徐々に上がっていけばいい。そういうイメージで学んでください。今日の瞑想は自己供養ですが、十二月まではゼロ歳の瞑想を主体にやってください」と話され、自己供養の瞑想が二組。闇出しで転げ回る人が続出しました。「瞑想で微動だにしない人」で二人出られ、塩川香世さんも指名されましたが、塩川さんは指さしと同時に飛び跳ねて喜びを身体全体で表現、改めて二人の内の一人が指さして喜びが出だすと、一気に全員参加の喜びの現象となりました。一端、席に戻りましたが再び塩川さんの登場で同じ喜びの大合唱になりました。休憩時にUTAブックの企画発表があり、引き続き三組目の瞑想も終って「ふるさと」で無事にセミナーの全日程が終了しました。

会員からのお便り

このコーナーは、皆様とUTA会を繋ぐページです。皆様の体験談や手記、ご意見などを、お気軽にお寄せください！

■体験談

▼促し

兵庫県 浅野昭子

この度、第六回UTA会に、約九年ぶりに参加させていただくことができました。ありがとうございます。いろいろなとお声を掛けていただきました。いろいろとお声を掛けていただきました。「太った?」「やせた?」「背伸びた?」「髪の毛伸びないの?」。そして、「どうしてなの?」。

子育てしてました。それに嘘はないのですが、やはり、頑固でしたというのがセミナーに来れなかった理

由です。本も読んでいましたし、ホームページも見ていました。セミナーの音声も聞いていました。心に響くことも沢山ありました。でも、私の反省は「生まれてきたくなかった」に尽きたのです。産んだことへの恨みと憎しみが骨身に染み付いている、それが正直な自分の思いだとは思えませんでした。

三月も終わりに近づいたある日の明け方、突然、耳が痛くなりました。中耳炎です。通常、三日ほどで治まる症状が一週間経つても、十日経つても治まりません。むしろ悪くなるようでした。詰まり、難聴、掴まれるような痛み、肩こり、耳鳴り、そして、息さえ雑音に聞こえ、寝られなくなりまりました。左半身が超敏感になってしまいました。文字も見えにくくなり、内容も理解できません。

理解できないと思うと狂いそうでした。二日寝られなかった時点で入院も覚悟しました。右の耳も聞こえなくなりそうでした。死んでしまうのかとも思いました。少し前には忙殺される毎日に「ひとりだったら、もっと勉強できたのだろうか」と思っていたのが、「もう少し、子どもの世話をしたいなあ」と思いました。

「先生に電話しようか」と何度も迷いました。助けて欲しいと電話をすれば嫌味のひとつも言われそうです。それ以上に先生が死んだらひとりではできないことの方が重要でした。

私は二十年前、アメリカのセミナーで狂いました。あまりに偉すぎたので、認めたことすらありませんでした。だから、先生に治してもらっても、そこからやっていこうと思えなかったのです。あのとき先

生が言ったのは「田池留吉に心を向けなさい」の一言だけだったのです。今回も先生はそれしか言わないでしょう。それしかないので。分かっています。本は読めませんでした。が、ホームページは読めました。第五回のUTA会の音声も聞きました。そして、もう、瞑想しかなかったのです。「病気になって瞑想するな」とありました。でも、するしかなかったのです。お母さんの温もりしかないので。分かっていました。分かっていたのです。「素直さ」だと言われたことがよく分かりました。やっと、分かりました。それをしたかったのだと分かりました。帰りたかったのです。「ぴょんと飛べんかな」と言われていたこと。もう、そうするしかないところまで追い詰められないとできなかつたのでした。

アメリカのセミナーの他にも促しはありました。その度に、その促しを手で払ってきたのです。何でもないときに、狂った自分を愛せる準備をしておくべきでした。半身が超敏感になった私が狂わずにおれたのは、家族のおかげでしょう。迷わずセミナー行きを決められるほどに育ってくれていました。

二ヶ月以上経った今も耳は完治してはいません。「なぜこうなった」とか、「肉体細胞の愛」とかを感じる余裕はありませんでした。必死でした。耳鳴りがすると、「宇宙かな」と思います。漠然とですが。「宇宙の風」を読むと面白いです。ホームページで宇宙、宇宙と言われるたびに「いや、まだそこまでは……」としり込みをしていた宇宙が少し身近に感じられます。楽しくなってきました。

先生も、塩川さんもお顔が変わっておられました。進化とでも言うべきか。私には大切なお土産です。

メッセージにあった「体験談を」の促しを受けて書かせていただきました。焦りと不安が沢山でしたが、今は嬉しさが蘇ってきました。課題に喰らい付けてよかったです。ありがとうございます。

▼本当の「私」との出会い

埼玉県 大河内径子

学びに触れて二十三年の歳月が流れます。

私が「私」の実在（意識の自分の実在）と、いつも共にあると、はっきりと確認したのは二〇一〇年十一

月十八日の晩のある出来事からでした。

私と「私」の違いとは？

UTAブックから出版されている『母なる宇宙とともにⅡ』の「⑩自分を生かすエネルギーの存在」に詳しく説明されていますのでお読み頂けたらと思います。

この出来事は、そこに書かれている「私」との出会いでした。永遠の自分、永遠の波動との出会いでした。十二月二日に『続意識の流れ（改訂版）』が出版されるにあたり、五十肩で肩が痛かったので、今回は本屋さんにお願ひして届けて頂くことに決めました。

書店で購入する際に使う注文書を印刷し、手元に置いて本屋さんへ電話をしました。

肉の私は、本屋さんとやり取りを

しています。

「それでは、ご住所と電話番号をお願いします。」

「郵便番号は、336の……。」

大して頭は使っていないけど、代金引換ということだし、私は二階から階段昇降機で降りていかなければならないし、だから効率的に事を済ませよう、そのためには品物が到着する前に携帯に電話を欲しい旨を伝えようとか、指定時間を言おうとか、頭はゆっくりと回転していました。

一方、その会話とは全く関係なく心が広がっていききました。穏やかかというか……なんとも言えない温もりになっていきました。目は、確かに『続意識の流れ、田池留吉／塩川香世』という紙面上の字をなんとなく見つめていました。店員さんの会話は続いています。それとは全く関

係なく心がどんどん広がっていきま

す。これだけは確認しておかなければ……とか、頭を軽く回している自分にはお構いなく心が勝手にどんどん広がっていきます。店員さんも嬉しそうに應對してくれています。受話器を切った後、私は瞑想状態の中でした。もちろん何冊頼んだか、どういう状況の中で本が届くのかはつきりと覚えているし、記憶ははっきりしています。でも心が広がっている。肉の自分とは全く別の自分の実在を確実に感じています。別物がありません。別の世界がありました。波動だけの世界がありました。頭は肉のことで回っているのに、心は手で勝手に広がっていくのだから、もうなんて言っていないか……、頭でわかる世界ではないということに納得、納得でした。心は穏やかに広がった

ままという感じでした。「ああ、これが私なんだ。これが私なんだ……」。自然に目を閉じたくなる、閉じているのが自然の姿という感じでした。

肉の自分と意識の自分とが、全く別物として実在していると確認できたので、すごく嬉しかったです。

翌日も朝目覚めたときからこの温もりの中という感じでした……。ああそうでした、思ったから温もりが甦ったのでした。しばらく、ボーっとしていました。そうです、確かに目覚めてすぐに、昨日の出来事を思い出しました。申し込み用紙をはつきりと思い出しました。そうでした。こうして今肉があるから、私はその温もりの中に帰ることができたのですねえ。思う自分、ひとつを信じる自分に出会えたということは、すごいことだったのですね。こういう自分

に出会うのに田池留吉の存在はどうしてもどうしても必要でした。

今回の出来事ではつきりしたことは、「私はあなた、あなたは私、ひとつ」のエネルギーの世界が肉の私の動向に関わらずにちゃんと実在していたということでした。

午前九時頃ちよつとしたことが起きて心は結構揺れました。でもすぐに目を閉じたくなるのです。目を閉じればやはり温もりの中でした。このちよつとした出来事は、私にとって本当は大問題なのです。心を見るということを知らずにこの出来事が起きたとしたら、私はもう大変な状態だったと思います。心を見ている現在の私でもやはり肉の自分が自分だと思っていますから、またその出来事が思い出されます。ちよつと気にします。でもまたすぐに目を閉じ

たくなります。目を閉じれば温もりの中です。何もありません。もちろんそのときは、その出来事はどうでもいいものになっています。肉の自分に戻ればまた少し気になりますが、温もりの自分が私だという思いもありますので、肉の自分に戻ったとしてもそれほど気になりません。

この日は忙しい日で夫とあちらこちらに立ち寄ったのですが流れるように事が済み、行く先々で暇さえあれば自然に目を閉じてしまう中、穏やかな空間がずーつと広がっていました。本物の波動は仕事をするのですね。夫は学んでいませんが、いつも目を閉じている私を咎めるわけでもなく、「お前はいつも眠っているんだね」と言いながら、夫も気持ちよさそうでした。

これらの出来事のお陰で肉の自分

と意識の自分の違いを益々はつきりさせて頂けました。正しく、生かすエネルギーとの出会いでありいつも一緒だということの証でもありません。

私は、今、やはり肉が自分だという中にいます。ちょっと大きな出来事が起きればやはりぐらぐら揺れて肉の中に落ちて苦しむからです。

もちろんあの出来事は大衝撃でしたし忘れはしません。

その世界の実在が明確になったのですから、そこに必ず帰ります、というより、いつもその温もりは私の中にあるということです。信じるもの信じないものない、これが現実だということですよ。

幼い頃、死後の世界を考えたとき

の私は、周りに在るものが全て消えて、一人ぼっちになるという感覚の中にいました。だから、死をとんでも恐れ、底知れぬ恐怖を感じてきました。死とは、周りにあるものとの別れ、周りにあるものが消えて一人ぼっちになるという幼い頃のあの感覚、すなわち肉の基盤にあつては、やはり死を恐れる自分を救えないと思っています。

私は、瞑想を終えて、感想を書くときに、よく「これが私だ」ということを書いてきました。「これが私だ、この温もりが私だ」という感想です。当然その中には、肉だという私も在る、という思いが含まれていました。だから、心が今一広がりませんでした。

本日の瞑想を終えて、やはり「これが私だ」と書きました。そして、

その字の上に二重線を引きました。「これが私だ」は、無い。この波動しかないんだ！ 永遠に生かしてくれるエネルギーしかない。

苦しみ、すなわち、己は無い。
この波動しかない。(心が穏やかで、なんとも居心地いい空間が広がります。心がこの波動しかないんだよって伝えてくれます。)

この思いこそ、田池留吉、アルバーと同一の意識の「私」、ひとつの「私」、

この波動そのものの「私」、
あのととき出会った別物の「私」です。

肉持つ今、肉の思いの私といつも一緒に実在する「私」です。
永遠に生かしてくれるエネルギーの「私」です。

現在の私は、私を私だと思つて
います。「私は『私』でした」に至る道
を、心をしっかりと見て歩んでまい
ります。

▼手記

大阪府 野崎 緑

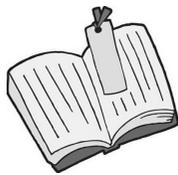
私は物心ついた頃に漠然と見える
世界はにせ物で見えない世界が本当
なんだというのがありました。でも
それを知る手掛かりは見つからずそ
れを求めてあらゆる宗教、深層心理、
自然科学等の本を読みあさりました。
いろんな宗教にも首を突っ込み、家
の宗教である天理教にも修養生科生
として泊まり込みで勉強しました。
二十六歳の時、自然を対象にした信
仰宗教に入り約二十年間勉強しまし

た。座布団に座って話を聞くだけで
体質が変わる、その話を実践してい
けば幸せになれるということを感じ
てやっています。小さい子供達を
連れて行ける限り通いました。奉納
も出来る限りしました。やめる時は
何となくやめてみようと思ったのは
何の答も得られなかったからかもし
れません。商売も失敗し経済的にも
ドン底に落ちていたにも関わらず、
幸せは感じるものと、どうにかなる
と割り気楽でした。でも事態は深
刻でした。主人はもうこれ以上働け
ないというぐらい働いてくれました。
もちろん私も出来る限りの仕事をし
てきました。借金は自転車操業です。
そんな主人が仕事中、高速道路で追
突され、即死しました。今から四年
前です。その時に同じ信仰宗教をし
て偶然同じ時期にやめていた友人が

『意識の流れアルバートとともに』
の本を渡してくれました。私は肉の
文字と田池留吉という名前に引っ掛
かってなかなか読む事が出来ませ
んでした。かなりの月日が経って
友人の勧めでセミナーに行く事に
して本を読み進めました。正に私が探
し求めていたものでした。すでにそ
の時には、子供と家庭を守る為に自
分を変える為の能力開発に多額の勉
強代を払い込んでいました。こんな
に身近に探し求めていたのがあった
のに、まだ私は欲でお金を儲ける事
をやるうとしてました。私はまた意
識の流れのシリーズの本を読みあさ
りました。もうこれしかない、これ
は凄い、やつと出逢えた!!と頭では
すぐわかったのですが、心の方は疑
い疑いで素直になつてくれなかつた
です。四回目のセミナーでやつと田

池先生の前に出させて頂いて意識を塩川さんが言ってくれた「私はパワーを求めてきた」というのも身に覚えはないと答えたけれど、私はパワーが欲しかった、誰にも負けない力が欲しかった！ 本心がちゃんと底にあつたんです。塩川さんみたいになりたい、自分を誇りたい、こんな思いを閉じ込めてきました。聞かどうかわからないのですが、当時主人の事故で裁判も長くかかりましたが、その時の弁護士には今もまだ腸が煮えたぎるほどの恨みがあつたりします。重苦しい思い、虚しさがあり、毎日のように見る夢は朝から気分の悪さが続いたりします。本当に鈍感でまだまだ母の温もりも感じる事も出来ませんが、瞑想の大切さを感じ、時間があるたびにやるようにしています。五回目のセミナーで母に対す

る意識を出して頂いて嫌い大嫌いが出ました。何でも思い通りになる母が、私に気に入らない事があるとすぐ嫌いが出ていた。今は人に対してすぐ出てしまいます。母には今は優しかった思い出しか思い出せないので。やっと巡り逢えた真実、やっばりそうだったんだ、人間は苦しむ為に生まれてきたんじゃない。喜びなんだ。瞑想でしかわからない真実の世界でした。まだまだ道遠しかもしませんが、私はすべてに感謝して学んでまいります。本当に手取り足取り導いて頂いてありがとうございます。私は今、何はなくとも幸せです。



■感想文

▼第六回UTA会セミナーに初めて参加して。

滋賀県 佐藤光浩

昨年二〇一〇年十二月福岡の方からの紹介で「意識の流れ」を購入し読ませていただきました。

本の内容はすつと心に入っていました。田池留吉という人はすごい人で「書いてあることが本当なら素晴らしいなあ。一度会ってみたいな」、そんな思いで第六回UTA会セミナーに参加いたしました。

今日五月三十一日に帰宅し、まだ感動が収まらず感想文を書いている次第です。

私は、ある宗教を熱心に信仰している両親の元に昭和四十年四人兄弟の二男として生まれました。小さい

頃はなにも分からずに、家族全員で朝晩神様に手を合わせ、お祈りをしておりました。とても貧しい家庭で、小学校の頃は新聞や牛乳配達をしてお小遣いを稼いでおりました。家中では自分の家に他人（信者さん）が同居していることで家庭のぬくもりを感じた事がなく、いつも他人を気にして育ってきました。やがて中学、高校となると反抗期となり、それから朝晩のお勤めはしなくなりました。そんな私でしたが、両親は新聞配達で稼いだお金と信者さんから頂いたお金で、私達兄弟を育てたのでしよう。

社会人になった私は交通事故を起

したり、何か問題がある度に父は私を教会本部に連れて行き、無理やり信仰をさせようとしてつこく説教しました。

しかし、それには従いませんでした。でも、幸せになりたい。金持ちになりたいといろんな事に手を出し失敗し、お金はなくても人格者になりたいと、霊能者の所に通ったりしていました。自分では無宗教だといながら、宗教団体は組織があるからダメで組織のない信仰ならいい、神様、仏様は尊い存在であると去年まで思っていました。宗教組織のお金にまつわる事が嫌いで団体を否定していたのですが、先祖供養はしたほうがいいと訳の分からないことを思っていたのです。

ところが昨年十二月に「意識の流

れ」を読み、アマテラスのエネルギーを知って間違いにやっと気付いたのです。

今回、初めてセミナーに参加し田池先生のパワーを見せて頂きすごいと驚き、また死後の世界が苦しい事、深い深い闇があることを実感いたしました。そして教祖と信者の関係、己一番、アマテラスがいかに小さいものであること。他力本願が愚かなことであること。それによって何万回もの転生で苦しんでいる事。闇の中に押さえつけている事。そして、ますます死を辛い悲しい苦しい寂しいものになっていることが、とてもよく分かりました。はつきりと目の前で見せて頂き心に焼き付いておりません。

自己供養、それこそが私が一番望んでいいる事だったのです。

今でも必死に神にお祈りしている両親を見てみると、かわいそうではありません。このまま死を迎えたらと想像すると恐ろしくてたまりませんが、今の私とその宗教を止めると言っても喧嘩になるだけで逆効果です。私が変わらなければ父も母も変わらないでしょう。

今現在、まったく母の温もりなど感じていない私ですが、田池留吉の世界のすばらしさは肌で感じました。早く寂しい闇の中にいる私の魂を抱きしめることができるよう、しっかりと学びをしまいいります。

田池先生はじめU T A会スタッフ

の皆様、参加しておられた皆様、心から感謝申し上げます。

ありがとうございます。

引き続き、

第七回U T A会セミナーに

参加して。

今回のセミナーは一、二、三で自己供養といわれるように、その大切さを実感するセミナーだったと思います。

私は、去年の十二月に「意識の流れ・増補改訂版」を読んで意識というものの重要性や本に書いてある事が本なら素晴らしいなど感じ、一度田池先生に会ってみたいと前回のセミナーに参加したのです。

前回五月のセミナーに参加した直

後は、正直なところエネルギーを見るところがまだ分かりませんでした。

この学びは心の使い方を勉強するのだろうと勘違いしていました。それは肉で考えた心の使い方のノウハウを学ぶのだろうとの大間違いをしていたのです。

それでも、「その人、田池留吉」「時を超えて伝えたいこと」「母親のぬくもり」などの本を読んで、とても感動している自分がありました。

Facebookに本の感想を投稿したり、小さな心の変化などをコメントした時に、ある人から教えていただきました。六月六日のことです。次がそのコメントのやり取りです。

私 「ありがとうございます。今日

仕事しながら本の内容を振り返りつくづく心の学びだなあ

意識の流れを感じる以前に、心の使い方をどうするかなのか！と思いました。」

男性 「ただ心を見て、自分自身のエネルギーを確認するだけです。」

エネルギーを確認する。と教えて頂いてビックリ！

大きな間違いで恥ずかしいです。それから「意識の転回」や「お母さん、ごめんなさい」を読みました。今までは肉主体だった。意識主体の意味が分かった時、この学びがとてつもなく大変な、大きな、そして重要な勉強なのだと感じました。もう一度セミナーに新たな気持ちで参加しようと思ったのです。セミナー前の一

週間は瞑想しよう。瞑想したい。セミナーが楽しみ、そんな日々でした。

セミナーの一日目の感想は学びがどんどん進んでいる。進化しているなあ。といった感じでした。

二日目、会場で「嫁と姑の確執」を読んでいたと思ったら、涙が出そうになりました。支配欲といえれば男にもあります。ここでも「己一番」を感じていたのです。

そして、休憩後の先生が言った言葉「寒い冬に、寒い、寒いといっている自分に扇風機をあてるようなもの」、その例えはとても分かりやすかったです。今の自分はまさしくその通りです。心が冷たく、寂しく、寒いのに、また自分で冷たい風をあっていた。ごめんなさいと反省です。

夜になりました。両親が熱心に信仰している宗教を何とかやめさせる方法はないかと考えておりました。お風呂から出てきてフロントにあった参加者の名前をなにげなく見ていましたら、「本田せつ子」さんの文字が目飛び込んできました。(そうだと、父親に「家族の風景」を読んでもらおう)と思いつきました。

父親は宗教家であるのに母に対して冷たい言葉や態度、鬼の形相をとることがあるのです。些細なことでもよく口論もしています。一生懸命に神様に手を合わせる事よりも、その態度を変えてほしいと思います。

「家族の風景」だけ渡したのでは効果はないでしょう。これから毎日父に「寂しくないかい」「身体はどうだい」「歳を取るって辛いかい」など聞いてみようと思います。

三日目は朝からなぜかウキウキしていました。朝食の時に、昨日までのことをいろいろ思い出していました。そしたら自分の中で（私はまだ学びが浅いからしっかり勉強しなさい）と聞こえてきたのです。それを感じたなら、嬉しくて、嬉しくて、涙が出そうになりました。

食事を無事に済ませ、通路に出るとある女性がいました。その方は私と同じ二度目の参加です。

声をかけ、話をしたら「瞑想でまだ異語が出なくてもいいのです。私も出ませんから。それより本を読むときに声を出して読むと良いですよ。そうすると肌を通していい波動が入ってくるから」と聞いた時、涙がこぼれ、泣いてしまいました。なぜか嬉しくて泣いていたのです。

その後の会場での瞑想で「田池留吉に心を向ける、合わせる」とやったとき（寂しい、寂しい、悲しい）という気持ちと涙が出てきました。それは瞑想のときに始めて実感した、私の中から出てきた思いでした。記念すべき一つ目の闇です。

今回のセミナーは本当に嬉しい、嬉しい、楽しいセミナーでした。

帰りの車の中では、父親にどのように優しく言葉をかけてあげようかと考えておりました。

後継者になれなくて「ごめんなさい」と優しい気持ちで言えるだろうか、など思いました。

ちよつと寄り道をして実姉に「嫁と姑の確執」を手渡しました。「涙なしでは読めない本だから」と一言加えました。

とにかくこの三日間はとても嬉しい、嬉しい、楽しい日々でした。

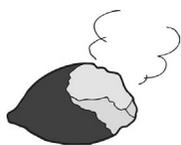
他にもいろいろ気付くことがありました。ありがとうございました。

Facebookの友達に会えたことも嬉しい、ありがとうございます。

これからの瞑想が楽しみです。毎日瞑想していきます。「自分の闇よ、たくさん出てきてね。温かく抱きしめてあげるから」

田池先生はじめUTA会スタッフの皆様、参加しておられた皆様、心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。



■最近頂いたメールより

大阪府 Iさん

いつもお世話いただき、ありがとうございます。
 すごします。

昨日、「意識の流れ あなたに語りかけましょう 第一巻」が、無事届きました。

ありがとうございます！

最初、てっきり、UTA会の音声CDかと思いましたが、早いなあと。

開けてびっくり！「意識の流れ あなたに語りかけましょう 第一巻」でした。

あ、このように、ホームページを活用していただける。

なんとありがたいのでしょうか。

嬉しかったです。ありがとうございました。

【お願い】

UTA会では、会員の皆様に冊子等の発送を行っていますが、皆様
 が転居された場合、是非、UTA会へも早めにお知らせください。

と言いますのは、UTA会では、発送物は郵便局ではなく宅配業者に
 頼んでいますので、郵便局への転居届を出されても、宅配業者からは、宛先不明ということで戻ってきます。

そこでお願いですが、発送作業をスムーズに行うためにも転居された
 場合は、お早めにUTA会ホームページの「変更手続」のページから
 ご連絡ください。ご協力、よろしく、お願いいたします。

【体験談・感想文等の募集】

UTA会では、体験談（手記）やUTAブックから出版されている本を読んで
 の感想文などを募集しています。

頂いた原稿は、このコーナーなどで皆さまに紹介していく予定です。

原稿は、下記UTA会の原稿受付専用メールアドレスまで、Eメール、または
 Eメールの添付として送っていただければ助かります。もちろん、郵送でも受け
 付けいたします。たくさんのご応募、お待ちしております。

【送り先】

原稿受付専用メールアドレス：info@utakai.net

郵送での宛先：〒819-1136 福岡県糸島市美咲が丘 2-5-1

UTA会 中村康一



メッセージ

UTA会のホームページに掲載してあります『私はあなた、あなたは私、ひとつ』のメッセージ、七六から八〇までです。

七六、皆さん、死後の自分と語っていますか。

どうぞ、今、その肉体がある間、本当にしっかりと自分と語っていただく。

死後の自分と語る瞑想をしていけば分かるはず。

肉体がある今という時、この時にこそ自分に伝えられる絶好のチャンスなんです。

肉体をなくせば、果たしてどれだけ自分に伝えることができるのか、それが死後の自分との対話の中で、はつきりと心で感じていくことだと

思います。どうぞ、今、肉体を持っている今、本当に真剣に学びに心を向けてください。自分に心を向けてください。

死は突然にやってくると思し、自分に何も伝えることができません。死んでいく冷たさ、無念さを少しでも解消してください。

肉体がある今、自分と自分の中で私は本当に母の温もりを心を感じているか、母の温もりの中にある自分を信じているか、母の温もりだけが、そして、喜びだけが本当の私なんだ、それをどれだけ信じているか、絶えず自問自答をしながら、自分の中で学びを進めていってください。

そして、UTA会という学ぶチャンスがあり、そこに集えることが可能ならば、出来る限り参加してください。

欲の思いとかそういうのではなく、真剣に自分に少しでも本当の世界を伝えていこう、真摯な思いで参加されることを願います。

七七、「私達人間は意識、エネルギー」。これがたった一つの真実です。

この真実を学ぶために、私達は生まれてきて、こうして学んでいるのです。

UTA会という学びの時間は、このたった一つの真実を心で知るために設けられた貴重な時間です。

その時間を可能な限り、有効に使ってください。

欲の深いご自分の心を厳しく見つけて、少しでも自分に誠実になりましょう。自分に誠実に素直になることが、自分を愛することです。まず、

自分を愛することから始めてください。自分を愛するとはどういうことなのかを心に問いかけながら学んでいきましょう。

本に書かれてあること、ホームページに書かれてあることに、疑問、反発、不可解の思いが出てくるならば、百聞は一見に如かずです。どうぞ、UTA会にご参加ください。ただし、本もホームページも熟読してください。そして、とりあえず、母の反省と他力信仰の反省をした人に限りません。またこれは、UTA会に参加される人すべてに必須の条件でもありません。

七八、死後の自分と語る現象、如何でしたでしょうか。

どうぞやら皆さんの学びのとりえ方

は、生ぬるいものだったと思いませんか。

地獄の奥底の中で苦しみ喘ぎ続け、そして、固まった状態だった自分に、何をどれだけ伝えることができているのか、しっかりと自分の現実を、その目で、その耳で、その心で感じていける学び方をしていきます。

そういうふう感じられた人は、どうぞ、残された肉の時間、一生懸命、そして、素直になって自分と真向きになってください。

肉を離れたあと、自分が培ってきたエネルギーが、それこそ怒涛のよう押し寄せてきます。肉というカバがなくなり、それが無い思った瞬間です。その中で、田池留吉、アルバート、お母さんと呼べる、そのほうに心を向けることができる、

それは本当に難しいでしょう。

それが意識の世界の現実です。その現実をしっかりと踏まえて、肉の時間を楽しんでください。

七九、UTA会セミナーは、楽しいだけです。楽しくて、楽しくて、ただそれだけ。セミナー会場という時間と空間を用意していただいたことに、ありがとうございます。

私は、自宅でもセミナーをしています。瞑想が本当に変わりました。量から質へ変わったことを実感しています。

セミナー会場で学び、自宅で学び、そして、私は日にち日の生活を淡々とこなしています。こんな幸せな人生はありません。

すべて自分がおぜん立てしてきた

ことを思い、今世の時間、自分を学んで、学んで、ただ喜びで学んで終えていこう、終えていけると思うたびに、ああ、私は幸せだと実感します。

暗い顔をして、暗い涙を流して、そんな人生から、どうぞ、皆さんも自分を解き放していきましょ。

生まれてくることができ、こうして自分を学ばせていただけ、これ以外に、こんな幸せはないと私は思います。

自分に「ありがとう」が言える幸せと喜びを、どうぞ、心から知っていきましょ。せめて、自分に「ありがとう」が言えて、その肉を終えてください。自分に真摯に誠実に存在する、その喜びと幸せを深く味わってください。

八〇、皆さん、お元気ですか。

体力の消耗する時期ですが、どうぞ、体調を整えて、九月のセミナーに集いましょ。

元気、元気で、喜んで、喜んで、セミナー会場に集いましょ。

日々、喜びで瞑想を重ねている人ならば、必ずそれに応じた心の勉強ができるでしよ。

どうぞ、自分を学ぶために、今世生まれてきて、そして、喜びに集っていることを、忘れないでください。

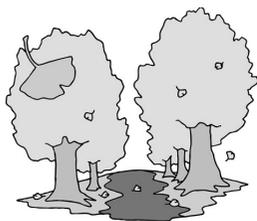
千載一遇のチャンスであることを、本当にあなたの心で感じられるならば、瞑想を喜びで積み重ねて、セミナー会場にやってきます。それは本当に自然のことです。

全宇宙に向けて開かれたセミナーの喜びの場。

感じて、感じて、心ゆくまで感じ

られる喜び。私は、セミナー会場を思えば、そんな喜びのエネルギーに満たされている中に、この肉を運ばせていただけることが、本当に嬉しいと心から思います。

今回も、何度も瞑想をする時間があるでしよ。私は、ただただ心の中に向け、田池留吉、アルバートの波動を存分に感じていける喜びを味わってまいります。宇宙へ向けて、ともに思いを向けていく喜びの時間を持たせていただきます。



《U T A会からのお知らせ》

● U T A会状況とお知らせ

1) 2011年度U T A会の10月20日現在の会員数は以下の通りです。

- ・正会員 893名(海外在住者18名含む)
- ・準会員 41名(海外在住者3名含む)

2) 今年度の発行予定

2011年5月 冊子「その人、田池留吉 第1巻 (ホームページより)」発送済み
機関誌「U T A会だより第5号」発送済み

7月 冊子「意識の流れ あなたに語り掛けましょう 第1巻」発送済み

9月 冊子「その人、田池留吉 第2巻 (ホームページより)」発送済み

10月 冊子「その人、田池留吉 第3巻 (ホームページより)」発送済み

11月 機関誌「U T A会だより第6号」発送

2012年1月 冊子「意識の流れ あなたに語り掛けましょう 第2巻」発送

※ 以上を予定していますが、変更になる場合もあります。また、これ以外にも新刊本の図書館への寄贈、本の音訳C Dの視覚障害者施設への寄贈が予定されています。

3) 今年度U T A会の開催予定

今年度は、年4回のU T A会開催を予定していましたが、来年3月に第10回U T A会を開催することになりました。日程は下記の通りです。

◆第10回U T A会

2012年3月18日(日)～20日(火) / 前日泊 3月17日(土)

申込期間2月6日(月)～27日(月) / キャンセル連絡日3月2日(金)

4) 来年2012年度のU T A会の開催予定

来年度は、年5回の開催を予定しています。開催日時は、以下の通りです。

◆第11回U T A会 5月27日(日)～29日(火) / 前日泊 5月26日(土) 申込期間4月16日(月)～5月7日(月) / キャンセル連絡日5月11日(金)
◆第12回U T A会 7月29日(日)～31日(火) / 前日泊 7月28日(土) 申込期間6月18日(月)～7月9日(月) / キャンセル連絡日7月13日(金)
◆第13回U T A会 9月23日(日)～25日(火) / 前日泊 9月22日(土) 申込期間8月13日(月)～9月3日(月) / キャンセル連絡日9月7日(金)
◆第14回U T A会 12月9日(日)～11日(火) / 前日泊 12月8日(土) 申込期間10月29日(月)～11月19日(月) / キャンセル連絡日11月23日(金)

◆第15回U T A会 2013年3月17日(日)～19日(火)／前日泊 3月16日(土)
申込期間 2月4日(月)～2月25日(月)／キャンセル連絡日3月1日(金)

※ キャンセル連絡日の翌日より、キャンセル料が100%かかります。

5) 今年度、2011年度のU T A会セミナー代金について

すでにご承知と思いますが、前年度は繰越金が発生しましたので、それを今年度のU T A会セミナー料に充当しています。次回以降、第9回、第10回U T A会セミナーも同じく繰越金を充当できますので、U T A会セミナー料は以下の通りになります。ご確認の上、申込期間内にお申し込みください。

- ・大人1泊につき500円を充当し、10,000円のところを9,500円とします。
 - ・2泊では、20,000円が19,000円になります。
 - ・但し、前日泊及び幼児・小学生代金に関しましては、今まで通り変更はありません。
- なお、来年度、2012年のU T A会セミナー代金に関しましては、今年度の繰越金を見て決めさせていただきたいと思います。

6) 来年2012年度U T A会に継続を希望される方へのお知らせ

少し早めではありますが、ホームページをご覧ください。おられない方もおられますので、来年2012年度U T A会に継続を希望される方へ受付期間をお知らせいたします。

- ・2012年度U T A会年会費 受付期間 2012年3月12日(月)～3月31日(土)
- ・年会費 10,000円
- ・振込先 口座番号：01700-5-140092 加入者名：U T A会

継続を希望される方は、郵便局より青い振込用紙にて年会費のお振り込みをお願いいたします。会員番号につきましては、継続をされる方は今までと同じ番号です。

● 次回のU T A会セミナーのご案内

1. 開催日時と場所 (遠方から参加される方のために、前日泊も設けています)

① 開催日程

◆第9回U T A会

2011年12月18日(日)～20日(火) 参加人数800名

2011年12月17日(土) 前日泊 参加人数300名

18日(日) 13:30～17:00 (12:00開場)

席決めの抽選を12:45より行います。

19日(月) 10:00～17:00

20日(火) 10:00～12:00 (会場は14:30まで使用できます)

【申込受付期間】 2011年11月7日(月)～11月28日(月)

【キャンセル連絡日】 2011年12月2日(金)

※ キャンセル連絡日の翌日より、キャンセル料が100%かかります。

② 会場 琵琶湖グランドホテル

〒 520-0101 滋賀県大津市雄琴 6-5-1 / TEL 0775-79-2111

2. 参加申込日程と参加料金 (料金にはセミナー会場使用料も含まれています)

申込日程		会員料金
前日泊	夕食・朝食付	10,500円
前日泊+全日程	3泊4日8食付	29,500円
前日泊+前半1泊	2泊3日5食付	20,000円
全日程	2泊3日6食付	19,000円
前半1泊/後半1泊	1泊2日3食付	9,500円

※ 初めて参加される方の参加料は、会員と同じです。但し、会員でない方のU T A会参加は、初回のみとさせていただきます。

※ 小学生、幼児は別料金になりますので、ホームページをご参照ください。

3. 申込方法について

① 申込期間内に、お近くの郵便局に備え付けの青い振替払込書にて、U T A会セミナー料金をお振り込みください。それで受付とさせていただきます。

② 振替払込書に、氏名、会員番号、申込日程を、必ず明記してください。布団、食事を必要としないお子様の名前、年齢も、必ず明記してください。

※ 複数名でお申し込みの場合は、それぞれの氏名、会員番号、申込日程を必ず明記してください。

※ 同室希望については、第3回U T A会より同室希望の受付条件を、病気の方や介護が必要な方とのお世話をされる方、また、小さなお子様のいるご家族の方のみに、変更させていただきました。

同室を希望される方は、お手数ですが同室希望の理由と、それぞれの氏名を、必ず明記してください。

但し、ホテルの部屋の都合上、ご希望に添えない場合がありますので、ご了承ください。

※ 会員でない方が、初めて参加される場合は、振込払込書に、氏名、申込日程、住所、電話番号、性別、年齢、メールアドレスを明記してください(性別、年齢等はU T A会の部屋割りに、メールアドレスは受付確認メールの送信に必要となります)。但し、会員でない方のU T A会参加は、初回のみとさせていただきます。なお、会員でない方の参加は、今までに開催されたセミナー、勉強会等に一度も参加されたことのない、まったく初めての方のみ、受け付けさせていただきます。

※ 交通機関のご都合等で、U T A会最終日に昼食が不要の方は、「食事不要」と振込用紙に記載して下さるよう、お願いいたします。

- ③ 振込先（振込口座番号、入金金額は、必ず確認をお願いいたします）

口座番号：01700-5-140092

加入者名：U T A会

- ④ 入金の確認ができ次第、U T A会受付確認のメールを送信いたします。

なお、郵便振替払込書がこちらの手元に届くまでには4日間ほどかかりますので、確認メールの到着までには、一週間ほどお待ちください。また、メールアドレスをお持ちでない方へは、ハガキにてお知らせいたします。

4. キャンセルについて

- ・キャンセル連絡日までのキャンセルはメールで、また、キャンセル連絡日を過ぎてのキャンセルは、必ず次ページの電話番号まで連絡をお願いいたします。
- ・キャンセル連絡日までのキャンセル料は、無料です。
- ・キャンセル連絡日を過ぎてのキャンセル料は、総額の100%です。
- ・U T A会当日にキャンセルされる場合でも、必ず電話連絡をお願いいたします。

5. 参加についてのお願い

- ・参加のお申し込みは、必ず、期間内をお願いいたします。
- ・義務教育中のお子様の学校を休んでの参加、または幼児、小、中学生の保護者同伴なしでの参加は、ご遠慮ください。
- ・家族（夫、妻、舅、姑、子供…）に、U T A会への参加を反対されている人、または家族、職場に対して嘘をついて参加することは、ご遠慮ください。
- ・参加費用を借金してU T A会に参加することは、ご遠慮ください。
- ・ホテルや他の宿泊客に迷惑をかける人、またはU T A会の進行を妨げるような行動を取る人は、参加をご遠慮ください。
- ・参加者同士がトラブルを起こした場合、当事者間で解決が見られるまで、参加をご遠慮ください。
- ・セミナー期間中の個人的な物品の販売は、ご遠慮ください。

6. セミナー会場の座席、及び開場時間についてのお願い

毎回、セミナー会場での座席は抽選くじで決めさせていただいておりますが、最近、抽選くじで当たった番号以外で座る方や、友達同士で抽選くじ番号以外で纏まって座る方々がいるなど、参加者の方々から苦情が寄せられております。また、セミナー会場の椅子席が足りなくなる状況が出ています。そこで、セミナーに参加される皆様へのお願いです。

① 座席について

セミナー会場での座席は、田池先生ご夫妻、塩川さん親子、U T A会責任者の久保夫妻の6人以外の方は、必ず、抽選くじを引いて、当たったご自分の番号でお座りください。友人等、他人の番号で座るのはおやめください。

また、家族で参加されている方は、抽選くじは家族で1枚引いていただき、その番

号でお座りください。

なお、初参加の方の席は、こちらで「初参加者席」という紙を置いた席を用意しますので、そちらにお座りください。初参加者を紹介された方も一緒に座ってくださって結構です。

②椅子席について

毎回、足の悪い方、ご病気の方、高齢の方、初参加者のために、椅子席を用意しております。セミナーは床に座って受けていただくのが基本となっております。ご事情により、長時間、床に座るのが辛い方のための椅子席ですので、健康な方は抽選くじを引かれて、床に座ってご参加ください。

③セミナー会場の開場時間について

セミナー会場の開場は12時です。セミナーの準備等がありますので、開場時間前にセミナー会場に入るのはご遠慮ください。開場時間まで、ロビー等でお待ちください。

※ セミナーに参加されている方は、どなたも前へ座りたいというお気持ちは分かりますが、抽選で座席を決めるというルールをお守りいただきたいと思っております。

なお、抽選時間前にハンカチ等で座席を取られている場合、また、12時開場前に椅子席にハンカチ等で席を取られている場合は、ハンカチ等を撤去させていただきますので、予め、ご了承ください。

7. 会場ホテルへのアクセス

・電車をご利用の方

大阪・東京方面→JR京都駅→JR湖西線「おごと温泉駅」下車(JR京都駅より20分)
→琵琶湖グランドホテル (JRおごと温泉駅よりホテルの送迎バスにて5分)

・自動車をご利用の方

大阪・東京方面→名神高速道路 京都東IC→西大津バイパス仰木雄琴IC→
国道161号線→琵琶湖グランドホテル (仰木雄琴ICより5分)

【連絡先】

・お問い合わせは、UTA会サポートまでメールでお願いいたします。

メールアドレス：support@utakai.net

・キャンセル連絡日までの変更、及び、キャンセルは、上記UTA会サポートまでメールで、キャンセル連絡日を過ぎての変更、及び、キャンセルは、下記まで電話でご連絡ください。

幹事長 久保明子 TEL 0721-55-4666 (6月より変更になっています)

UTA会のホームページでもセミナーの案内等を掲載していますので、ぜひ、ご参照ください。

UTA会ホームページ：<http://utakai.net/utakai/index.html>

